

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2008.8.7 No.5

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 盛夏の森

気温が上がり、夏本番の森の中からコエゾゼミやエゾゼミの鳴き声が響いてきます。オオウバユリの白い花も終わり森の華やかさも一服していまが、春に咲いた花の種子を探したり、秋に向けて蕾をつけている野草の数々をさがしましょう。

### ◆ハエドクソウ

ハエドクソウの花が咲いています。咲いているといっても茎の上にまばらに穂状についています。名の由来は大和本草（1708年）に蠍毒草の漢字で表し「茎葉は柔軟で、葉を飯に押しませ蠍に与えると死す」との記述がありこれがハエドクソウの名になったと言われています。実際に茎全体にも毒があり、根をすりおろした液を紙にしみこませ、ハエ取紙に使ったこともあります。毒の主な成分をフロマロリンといい、食べると嘔吐などを引き起こします。

花は白または淡紅色で下から順に咲いていき、はじめは上を向いていますが、咲く頃は横に向き、実のころは下を向いています。分類としては、1科1属1種という珍しい種で、母種は北米東部に自生しています。

### ◆ノリウツギ

ノリウツギの白い花がきれいに咲いています。ユキノシタ科アジサイ属で、花のつくりは他のアジサイ属の仲間と同様に、小さな両性花が円錐状に多数つき、その周辺に結実しない装飾花が混じった花序をつくります。

よく目立つので、ハナカミキリ、ハナムグリ等の訪花性の昆虫が集まっています。花は枯れてからも茶色のままで冬になってもドライフラワーになって残っています。そのため、和歌山県南部の山間部では娘を嫁に送り出すとき「ノリウツギの花が無くなるまで帰るな」といって送り出す地域もあったといわれています。

ノリウツギの語源は茎が中空で内皮に含まれる粘液が和紙を漉くときの糊料として使われたことに由来しています。最近では糊料として中国原産のトロロアオイ（ハナオクラとも呼ばれている）の根が使われていますがノリウツギの方が腐りにくい性質があります。



### 観察会の予定

- ・「秋の花で賑わう森を歩こう」観察会

9月11日（木） 10:15~14:30 集合場所 野幌森林公園 開拓の村 昼食持参

開拓の村を出発～ふれあい交流館で昼食～開拓の村ゴールの新しいコースを歩きます。秋の花が咲き始めます。秋の涼しい風を感じながら澄んだ空気を体にいっぱい吸い込み森の中を歩きましょう。

## クモと昆虫の違い

森の中をあるくと、クモが巣を作っているのを目にすることがあります。このクモは昆虫とどこに違いがあるのでしょうか。

学問の世界では、昆虫といえば節足動物門、昆虫綱に属する生物のことであり、クモはクモ綱に厳然と分けられています。

世界中の昆虫類は推定で300万～500万種、名前が付いているものは95万種（1998年現在）といわれ、日本では推定10万種、名前がついているものは約3万種といわれています。

一方クモの仲間は世界中に約35000種、国内には1200種が知られています。

クモと昆虫の違いはいろいろありますが、おおまかに次の表にまとめました。

	クモ	昆虫
眼	単眼のみ	複眼と単眼
脚	8本	6本
体	頭胸部、腹部	頭部、前胸部、腹部
交尾	♂は精包を♀に渡す	直接

クモの眼は8個、退化して6個や4個のクモや洞窟で眼が無くなったクモなどさまざまです。

クモは巣を架けることで知られていますが、すべてのクモが巣を架けるとはかぎりません。クモは主にコガネグモ、オニグモをはじめとする造網性、コウモリグモのような徘徊性、ジグモのような地中性に分けられます。しかし、クモといえば糸を想像しますが、すべてのクモは歩く時に必ず「しおり糸」という糸を引いて歩き、敵から逃げるために網から飛び落ちるクモは必ず糸を引いており再び糸をたぐって元にもどることができます。また、特に網を作らないものでも巣の周りの表面にまばらに放射状の糸を張り、虫が触れると飛び出して捕らえるものがいます。このような糸を「受信糸」といい、これが「網」の起源ではないかと言われています。

クモはまた翅はありませんが、バルーニングと呼ばれる糸を使って風に乗り、空を飛んで分布域を拡げる習性があります。

## — 地球環境用語 —

### 《ヒートアイランド現象》

都市の中心部と郊外と比較して気温が高いということは100年以上も前から報告されていて、都市部の気温が周辺部より高くなることをヒートアイランド現象といいます。

その原因として、

- ・アスファルトの道路は昼間の太陽の熱射で深層まで高温となり、夜間蓄積された熱が放出されます。
- ・樹木は大気の水分を空気中に吐きだしています。緑地面積が小さくなると植物や地表からの蒸発量が減少して蒸発潜熱が減少します。
- ・都市への人口の集中により各種のエネルギーの使用量が増え排熱量が増加します。

これらの事柄が悪循環となり、都市の気温は年々上がり続けています。近年大都市では夏に局地的な雷雲が発生して、突発的な激しい雨が降り道路が水没になることがあります、これもヒートアイランド現象が原因になっています。